

SIOS Report



Vol.31

2021年12月期

2021年1月1日▶
2021年12月31日

▶トップメッセージ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、2021年12月期（2021年1月1日～2021年12月31日）の株主通信「SIOS Report Vol.31」を皆さまに

お届けし、当期の業績のご報告とともに、今後の展望につきましてご説明させていただきます。

代表取締役社長 **喜多 伸夫**

Q

2021年12月期通期の業績について お聞かせください。

当連結会計年度における売上高は、11期連続の増収を達成し、過去最高の売上高となりました。2021年4月に国内事業会社をサイオステクノロジー株式会社へ一本化するグループ再編を完了し、製品・サービスのクロスセリングの機会及び、業務効率化と生産性向上を図ったことが要因です。営業利益は358百万円（前年同期比51.7%増）、経常利益は400百万円（同56.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は367百万円（同18.6%増）となりました。

▶トップメッセージ

Q オープンシステム基盤事業セグメントの業績についてお聞かせください。

オープンシステム基盤事業は前年同期比7.9%の増収でした。COVID-19拡大を背景に、顧客におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)への積極的な投資が継続しており、Red Hat Enterprise LinuxをはじめとするRed Hat, Inc.関連商品は順調な増収、主力自社製品の「LifeKeeper」は堅調な増収となりました。セグメント利益は352百万円で、増益となりました。

Q アプリケーション事業セグメントの業績についてお聞かせください。

アプリケーション事業は、前年同期比3.0%の増収でした。MFP向けソフトウェア製品は前期までにサブスクリプション方式で契約した分が今期の売上に貢献して好調な増収となりました。クラウドの活用により企業のリモートワーク移行やDX化を推進する製品群「Gluegentシリーズ」も好調な増収となりました。また、システム開発・構築支援は順調な増収、金融機関向け経営支援システム販売は堅調な増収となりました。一方、金融機関向

■財務ハイライト

(百万円)	2020年 12月期	2021年 12月期	前年同期比 増減率
売上高	14,841	15,725	+6.0%
売上総利益	4,465	4,884	+9.4%
営業利益	236	358	+51.7%
経常利益	256	400	+56.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	310	367	+18.6%
EBITDA	329	448	+36.1%
ROIC	6.9%	10.0%	—

※EBITDA…営業利益+減価償却費+のれん償却額
※ROIC…税引後営業利益÷(株主資本+有利子負債)

けシステム開発・構築支援は減収でした。また、前期において放送局向けWebサービス事業及び社会公共アウトソーシングサービス事業を他社に移転したことが減収要因となりました。セグメント利益は4百万円でした。

Q 2022年度は設立25周年の節目です。刷新されたロゴマークに込めた思いとは何でしょうか。

無限大をイメージした新しいコーポレートロゴは、サイオスグループの一人ひとりが自らの力を最大限に発揮し成長し続ける「無限の可能性」を表現しています。また、シンボルマークを構成するふたつの図形の大きさと形の違いは、サイオスグループが重要視する「多様性」を表しています。一人ひとりの違いを互いに認め尊重し、強みとして活かすことで、サイオスグループは新たな未来を創り出すという思いを込めています。

Q 2022年度に注力する領域について教えてください。

企業のDX化を背景にさらなる市場規模の拡大が想定されるBtoB向け既存製品・サービス及び、それらを基盤としたSaaS^(※1)事業への投資を継続強化します。特にSaaSでは二つの領域に注力します。

一つが前述したGluegentシリーズです。こちらはマーケティングの強化による市場認知度の向上・受注案件の増加と、エンジニアの拡充による開発体制の継続強化及び、ユーザーニーズに合う製品開発の強化を両輪で進めます。

もう一つがMed Tech(医療分野におけるIT化の領域)です。医療法人社団成仁監修・設計のもとで開発してきた精神科病院向け電子カルテサービス「INDIGO NOTE(インディゴノート)」のサービスを今春から提供開始します。本サービスでは治療などに利用される各種医療システムやアプリケーションとの連携に優れた「HL7[®]FHIR[®](※2)」を国内で初めて採用しました。さらにフルクラウドでの

▶トップメッセージ

サービス展開と、国内複数拠点で分散的にデータ管理を行える高い可用性を実現し、安定した病院運営に寄与します。また革新的なサービスを提供し続けることで「創造性あふれる社会」の実現を目指します。

なお、サイオスグループは全社員が就業場所を自ら選べる働き方を追求し、テレワーク勤務を進めています。INDIGO NOTEなどの製品・サービス開発においてもメンバーがさまざまなコミュニケーションツールやプロジェクト管理ツールを活用してリモートワークで推進しました。

Q 2022年度の業績見通しは いかがでしょう。

売上高は16,000百万円（前年同期比1.7%増）と2期連続の増収を見込んでおります。マーケティング・営業強化のコスト増は売上高の伸長により吸収できる見通しです。さらにSaaS事業の強化に向けた研究開発投資や、多様な人材がやりがいをもって働き続けられる職場づくりと人材の育成・採用に力を入れます。なお、コスト削減・生産性改善のための一時費用として116百万円（天王洲アイルオフィス閉鎖費用80百万円、ERPリプレイス費用36百万円）の計上を予定しています。これらは中期経営計画の最終年度（2024年度）におけるEBITDA8.5億円（2021年度4.4億円）、ROIC21.5%（同10.0%）達成には欠かせない将来への先行投資と位置付けています。

Q 株主、投資家の皆さまへの メッセージをお願いします。

当期配当は普通配当10円に設立25周年記念配当5円を加えた1株当たり15円の配当を実施いたします。

今後の見通しはCOVID-19の変異株出現により日本及び世界経済は依然として先行き不透明な状況となっておりますが、顧客におけるDXへの積極的投資は継続する見込みです。当社はオープンソースソフトウェア（OSS）を

活用したシステム構築・運用支援で培った高い技術力を基に、革新的なサービスを提供し収益力の向上に努めてまいります。引き続き、弊社へのご支援をお願い申し上げます。

（※1）SaaS：Software as a Serviceの略。ソフトウェアをクラウドサービスとして提供すること。

（※2）HL7®FHIR®：医療情報交換のための実装しやすい新しい標準規格。

▶セグメント別の業績

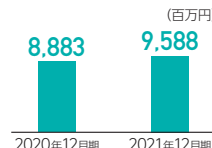
オープンシステム基盤事業

売上高

9,588百万円

（前年同期比 7.9%増 ▲）

- Red Hat, Inc.関連商品は順調な増収
- 主力自社製品の「LifeKeeper」は堅調な増収

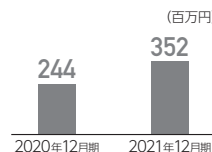


セグメント利益

352百万円

（前年同期比 44.6%増 ▲）

- オープンシステム基盤事業の売上高が増収となったことにより増益



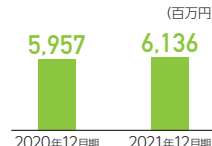
アプリケーション事業

売上高

6,136百万円

（前年同期比 3.0%増 ▲）

- 主力自社製品のMFP向けソフトウェア製品及び「Gluegentシリーズ」は好調な増収
- 金融機関向け経営支援システム販売は堅調な増収
- 金融機関向けシステム開発・構築支援は減収

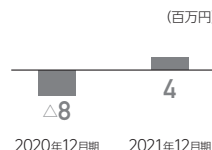


セグメント利益

4百万円

（前年同期は8百万円の損失）

- 主力自社製品の増収が寄与し黒字転換



▶基本方針と経営指標

会社経営の基本方針

当社グループは、「世界中の人々のために、不可能を可能に。」をミッションと定め、イノベーションによって人々の課題を解決し、より良い社会の実現に貢献することを経営の基本方針としています。

目標とする経営指標

当社グループは、継続的なキャッシュ・フローの創出のため、**EBITDA**及び**ROIC**を経営指標としています。キャッシュ・フローは、当社グループ成長のための源泉(Driving Force)である「人材」「研究開発」「イノベーションを生み出す企業カルチャー」への投資、及び株主・ステークホルダーへの還元のための原資とし、これらの活動を通じて経営の基本方針の実現を目指します。

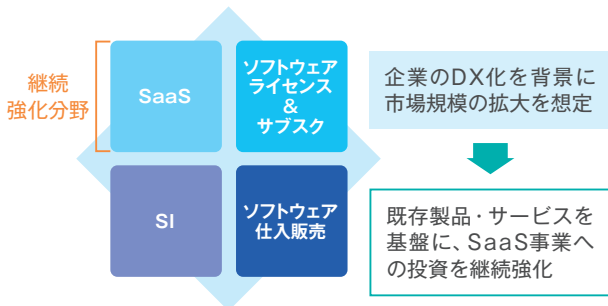
▶中期経営計画

SaaS事業への投資を継続し、2024年EBITDA **850百万円**、ROIC **21.5%**を目指す

	2021年	2022年	2023年	2024年
EBITDA (百万円)	448	220	530	850
ROIC (%)	10.0	3.0	12.3	21.5

▶SaaS事業への投資を継続強化

当社のビジネス領域 (BtoB)

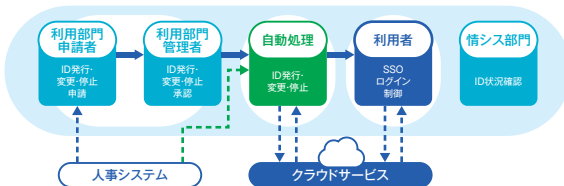


▶注力事業① Gluegentシリーズ

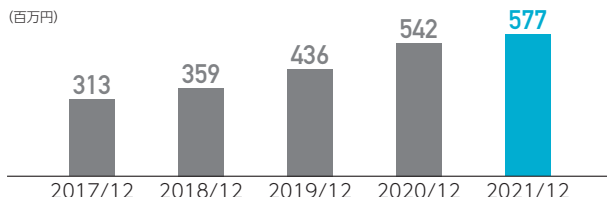
“つながるクラウド”をキーワードとした企業のリモートワーク移行・DX化を推進する製品群

- ・クラウド型ワークフローシステム (Gluegent Flow)
- ・SaaS認証基盤製品 (Gluegent Gate)

情シスクラウド (2021年12月リリース)



GluegentシリーズのARR(※) 推移



(※) ARR (Annual Recurring Revenue) = 月末におけるMRR (サブスクリプション契約等に基づき毎月繰り返し得られる収益の月間合計) × 12ヶ月

2022年の施策

マーケティングの継続強化

製品開発の継続強化

▶注力事業② Med Tech (メドテック) 事業

精神科病院向け電子カルテサービス
「INDIGO NOTE (インディゴノート)」を今春に開始予定

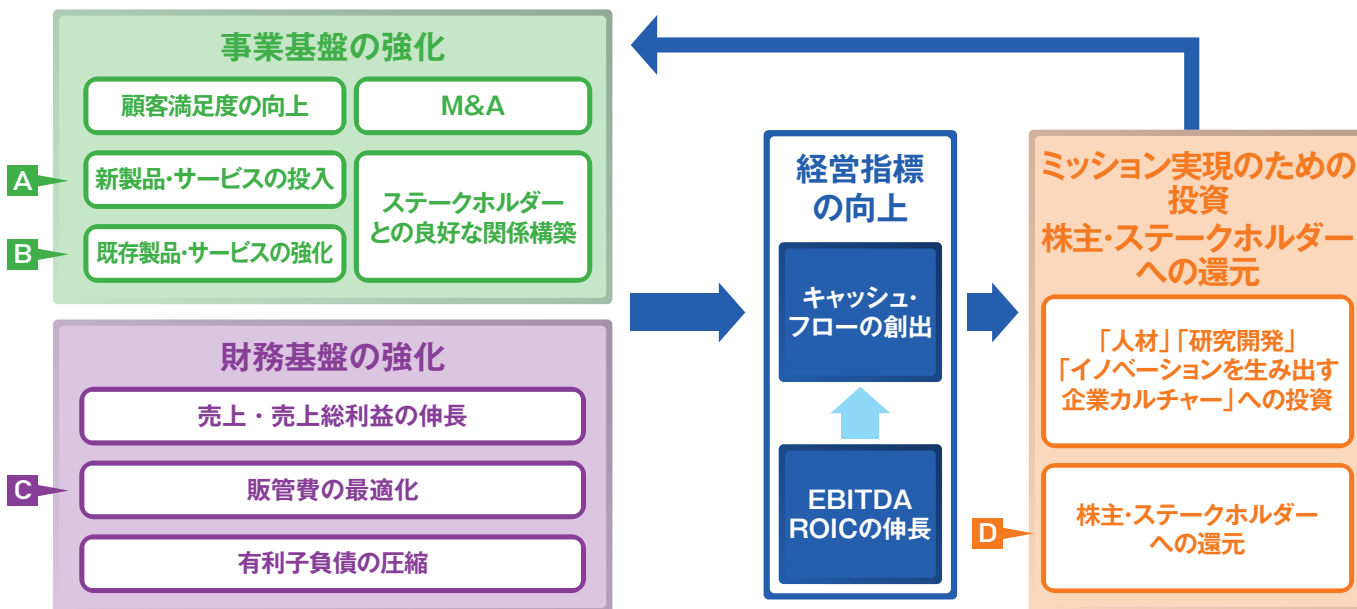
【サービスの特長】

- 精神科病院向けに特化し、必要な機能を網羅
- アプリケーション連携に優れた「HL7®FHIR®」を国内で初採用
- クラウドサービスであるため、いつでも、どこでも使用可能

【今後の展開】

- 各種医療システムとの連携強化
- Med Techを注力事業の一つと位置付け、革新的なサービスを提供し続けることで「創造性あふれる社会」を実現

▶当社グループのミッション実現のために



▶2021年12月期の振り返り

B 既存製品・サービスの強化

顧客のDX投資に資するクラウド関連製品の強化

- 「LifeKeeper」のクラウド対応強化
- 「Gluegentシリーズ」の販売強化
- 大学など学校法人へのクラウド導入支援強化

B 既存製品・サービスの強化

C 販管費の最適化

- 国内事業会社をサイオステクノロジー(株)に一本化
- 製品・サービスのクロスセリング機会の拡大とグループ経営体制の強化
- 業務効率化と生産性向上を図る

C 販管費の最適化

プラチナタワーオフィス(東京都港区)廃止

D 株主・ステークホルダーへの還元

1株当たり15円の普通及び記念配当を実施

▶2022年12月期の重点戦略

A 新製品・サービスの投入 B 既存製品・サービスの強化

顧客満足度の向上と当社グループの成長のためSaaS事業への投資を継続強化

- 「LifeKeeper」ほか既存製品のクラウド対応を継続強化
- 「Gluegentシリーズ」の継続強化
- 新分野(Med Tech)への進出

製品・サービスのクロスセリング機会の拡大により、さらなる生産性向上を図る

C 販管費の最適化

天王洲アイルオフィス(東京都品川区)廃止、将来(2023年以降)のコストダウンを図る

D 株主・ステークホルダーへの還元

1株当たり10円の普通配当を継続予定

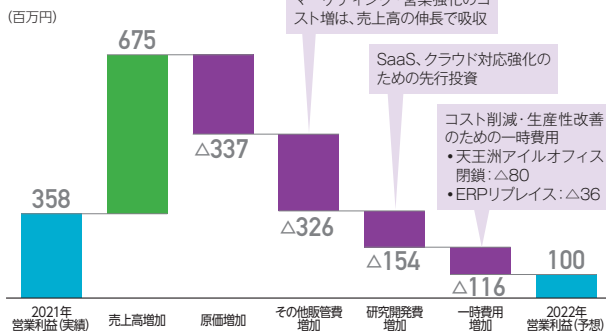
▶2022年12月期業績予想

12期連続の増収となる 売上高160億円を計画

(百万円)	2021年 12月期 実績	2022年 12月期 業績予想	前年同期比 増減率
売上高	15,725	16,000	—
(収益認識基準の 影響を除いた場合)	15,725	16,400	+4.3%
営業利益	358	100	△72.1%
経常利益	400	120	△70.0%
親会社株主に 帰属する当期純利益	367	60	△83.7%
EBITDA	448	220	△50.9%
ROIC	10.0%	3.0%	—

※2022年12月期より「収益認識に関する会計基準」の適用を予定しており、売上高において影響を受ける見込みです。

▶営業利益 増減要因



※上図の「売上高増加」「原価増加」には、「収益認識に関する会計基準」の適用による影響(400百万円)を含まない。

▶当期および次期の配当

当期配当(2021年12月期)

1株当たり10円の普通配当及び
1株当たり5円の設立25周年記念配当を実施

次期配当予想(2022年12月期)

1株当たり10円の普通配当を継続予定

▶株式状況／株主メモ

株式の状況(2021年12月31日現在)

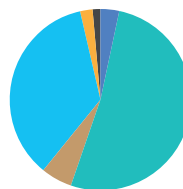
発行可能株式総数	15,000,000株
発行済株式総数	8,874,400株*
株主数	4,661名

※自己株式205,838株を含む

大株主の状況(2021年12月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
(株)大塚商会	1,593,300	18.38
パーソルテンプスタッフ(株)	1,500,000	17.30
喜多エンタープライズ(株)	920,000	10.61
日商エレクトロニクス(株)	404,800	4.67
喜多 伸夫	211,600	2.44

所有者別株式分布状況(2021年12月31日現在)



- 証券会社 3.46%
- その他国内法人 51.85%
- 外国法人等 5.56%
- 個人・その他 35.56%
- 自己名義株式 2.32%
- 金融機関 1.25%

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	毎年12月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国支店で行っております。

■住所変更等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

公告の方法 電子公告とします。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

上場取引所 東証二部
コード番号 3744

▶会社概要 (2021年12月31日現在)

会 社 名	サイオス株式会社 (英語表記: SIOS Corporation)		
設 立	1997年5月23日		
資 本 金	1,481百万円		
役 員	代表取締役社長	喜 多 伸 夫	
(2022年 3月25日現在)	取 締 役	森 田 昇	
	取 締 役	山 崎 靖 之	
	取 締 役	小 林 徳太郎	
	社 外 取 締 役	小 野 未 貴	
	取締役(監査等委員)	平 松 祐 樹	
	社外取締役(監査等委員)	古 畑 克 巳	
	社外取締役(監査等委員)	長谷川 紘 之	

主な子会社	サイオステクノロジー株式会社 (東京都港区)
	SIOS Technology Corp. (California, USA)

サイオス株式会社

〒106-0047

東京都港区南麻布2-12-3 サイオスビル

TEL:03-6401-5111 (代表)

FAX:03-6401-5112

